

# 歯科診療と音楽

川崎 次雄



■川崎 次雄 (かわさき つぎお)

昭和 18 年 12 月 22 日生まれ  
昭和 44 年 東京医科歯科大学卒業  
日本歯科補綴学会会員  
日本歯周病学会会員

なでしこ小学校創立以来現在に至るまで、  
子供の歯、身体、心を守るため、スタッ  
フとともに年 10 回ほど学校へ指導  
に行っております。教職員、PTA の方々の  
協力のもとすばらしい成果が発揮され、  
微力ながら教育に携わり子供の成長を  
見守り続けています。

(趣味) 音楽 テニス 囲碁

私は愛すべき平塚の地に生まれ、育ち、父の後を継いで歯科医院を開業して早 30 数年になります。

当時開業するにあたり診療室の改装に伴い、天井裏にスピーカーを数多く埋め込み、音響を良くしクラシック音楽を一日中楽しみながら治療をしたいという希望を持っていました。遠方よりの患者さんが多い為、皆さん 1 回 1~2 時間、時には半日も治療に時間をかけ、のんびりとリラックスした雰囲気で行っています。それだけに BGM は大切な役割を果たしており、選曲には神経を使います。患者さんの好み、私の好み、また治療内容に合わせて選曲、患者さんによっては曲目、演奏家を指定しリクエストする方もいられます。しかし歯科診療に合わない曲や楽器もあり、特に現代

音楽家の不協和音、楽器ではヴァイオリン、ピッコロ、声楽ではソプラノ等、高音で歯科診療の機械音と共鳴し他の患者さんへの迷惑となる事があり、お断りする事もあります。またポップス系の軽い乗りの曲も良いのですが、どうも診療室の雰囲気が軽くなり、緊張感が欠けてくるように思われます。患者さんの望みでブルックナーやバッハのオルガンミサ曲等もかけますが、重苦しい雰囲気になり許せる範囲ぎりぎり一回位としています。一日何回も繰り返して聞く事の出来る無難な作曲家としてはやはりモーツァルト、ベートーヴェン、ショパンで患者さんへの癒し効果も期待できます。チャイコフスキー、ブラームス、グリークの曲は、生演奏を聴くには素晴らしいのですがバタ臭さが強く飽きが来る為、年何回かに留めています。季節によりふさわしい曲があり、暮れになるとベートーヴェンの交響曲、新年にはヨハン・シュトラウス、シューベルトの歌曲、春にはヴィバルディ、夏にはカンツォーネ、秋にはショパンの曲が多くなってしまいます。私の体調、気分がすぐれないときにはワーグナーで刺激を求めたり、難しい緊張感の持続が必要な手術を行う時にはベートーヴェンのピアノソナタ、ショパンのエチュードを選曲することで集中を高める事が出来ます。同じ曲を何人かの異なった演奏家で連続して聞くとか、同じ演奏家の若い時代、10 年後、20 年後の演奏の違いを聞くなど楽しみは、際限なく広がります。学会で上京したときは銀座の山野楽器でその様な CD を選ぶのも楽しみの一つですが、最近の演奏家には良い音を出すよりも、聞き手を喜ばず事が上手な人が多く、昔の職人的で個性的な自分の音を追及する音楽家が少なくなっているように感じるの、私が年をとったせいなののでしょうか。特に音楽祭で優秀な成績をとった若者が、マスコミにもはやされ一流の音楽家になったと錯覚している演奏家が少なからずみられるように思われます。ヌーボーのワインの様にこの年のワイン

がながい年月をかけてどれだけ熟成されるかを楽しみながら飲むように、才能ある若き音楽家が日々精進し保存状態の良い年代物のワインになるよう暖かく見守れるようになりたいものです。私の思い出の演奏家を選べと言われたら、晩年まで努力を惜しまず曲を追及し続けたルドルフ・ゼルキンのアパッシォナータや、蝋燭 1 本の照明で演奏会を行うリヒテルのベートーヴェンが私には最高の音楽であります。残念ながら平塚では一流の音楽家の演奏を聞く機会が少なく思っていたのですが、昨年市民センターでフルートのパユ (NHK の大河ドラマ「功名が辻」のバック演奏者) がメンバーとなっている木管アンサンブル、レ・ヴァン・フ



ランセの演奏会が行われました。アンサンブルとしては現在世界一と思われるこの職人達の手抜きのない完璧な演奏 (特にオーボエのルルークラリネットのメインが出色) に久しぶりに感動を覚えました。観客が三分の入りとは情けないやら、もったいないやら胸中複雑な思いが致しました。平塚の地が、茅ヶ崎、藤沢の音楽愛好家の人たちから歌舞音曲の育たない川向こうと言われ、悔しい思いをした事が度々あります。せめて次世代の子供たちに音楽を通じて夢を持たせるように有識者の方々がより良い音楽を若者に提供する機会を与えられるようお願いしながら、日々クラシックを楽しみ、診療を続けて行きたいと思っているこの頃です。